

三市町村 & 医師会 & 訪問看護ステーション 連携による在宅医療体制構築

長野県須坂市健康づくり課 地域医療ネットワーク推進室
室長 樽井寛美

1 須坂市・小布施町・高山村の位置 (須高地域)



平成24年10月現在

	人口	世帯数
須坂市	52,591人	19,239世帯
小布施町	11,412人	3,715世帯
高山村	7,571人	2,386世帯
合計	71,574人	25,340世帯

平成23年12月末現在

	高齢化率
須坂市	26.6%
小布施町	27.7%
高山村	26.3%

三師会も須高
地域をエリア
としている。
関係が良い

I 須高地域の強味&先進的取り組み

1 三市町村で地域医療福祉ネットワーク推進室設置 (平成22年4月)

①職員は3名

②運営経費は人口割りによる三市町村の負担

2 須高地域医療福祉推進協議会 立ち上げ

①構成団体:三師会・地域の病院・訪問看護ステーション・介護保険サービス事業所・社会福祉協議会・保健所等

②関係機関の代表が理事となり、理事会を開催(7月26日)

③二つの専門委員会を設置し事業に取り組む

「在宅医療福祉について」取り組む多職種による第2専門委員会を定例開催(毎月1回)して、顔の見える関係ができた。(11回開催)

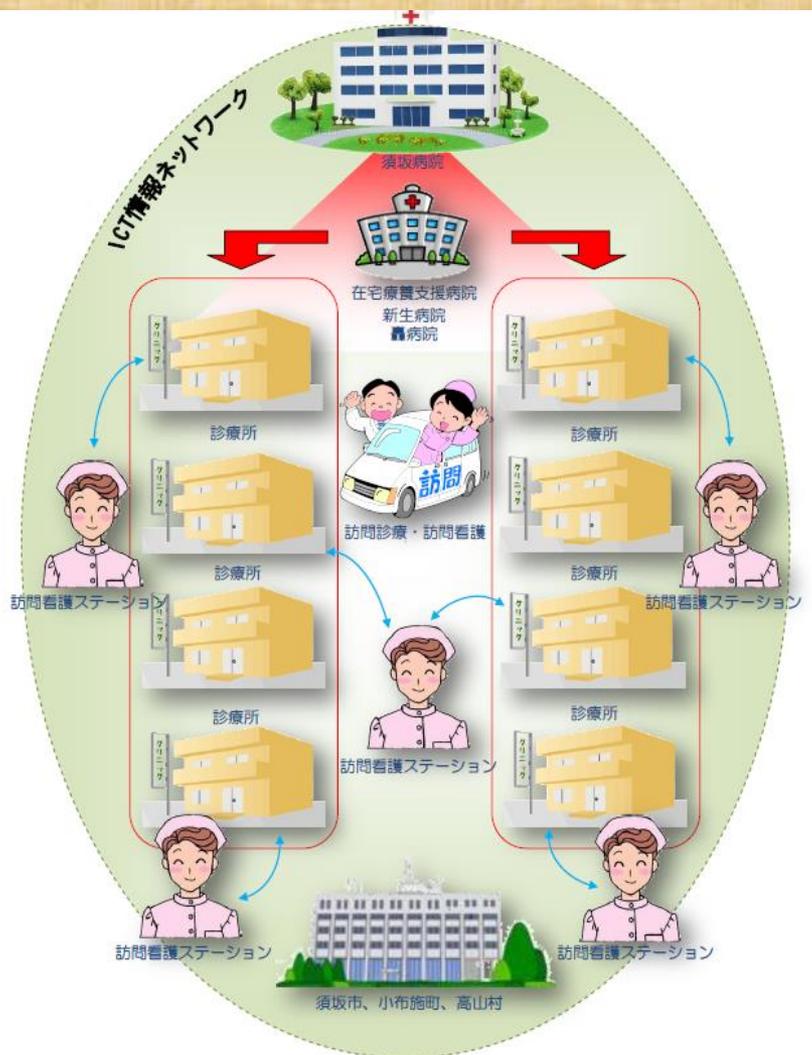
Ⅱ 拠点事業で抽出した地域の課題

1. 住民の安心を支え、医療関係者の負担軽減にもなる、在宅療養者の24時間サポート体制の構築が必要
2. 退院前カンファレンスの効果的な開催と地域連携の検討が必要
3. 在宅で看取りができる須高地域づくり
4. 地域内の介護施設等における嚥下困難食形態の統一が必要
5. 災害発生しても在宅療養が継続できる対応策の検討

Ⅲ 課題解決に向けて実施したこと

課題1 24時間サポート体制構築

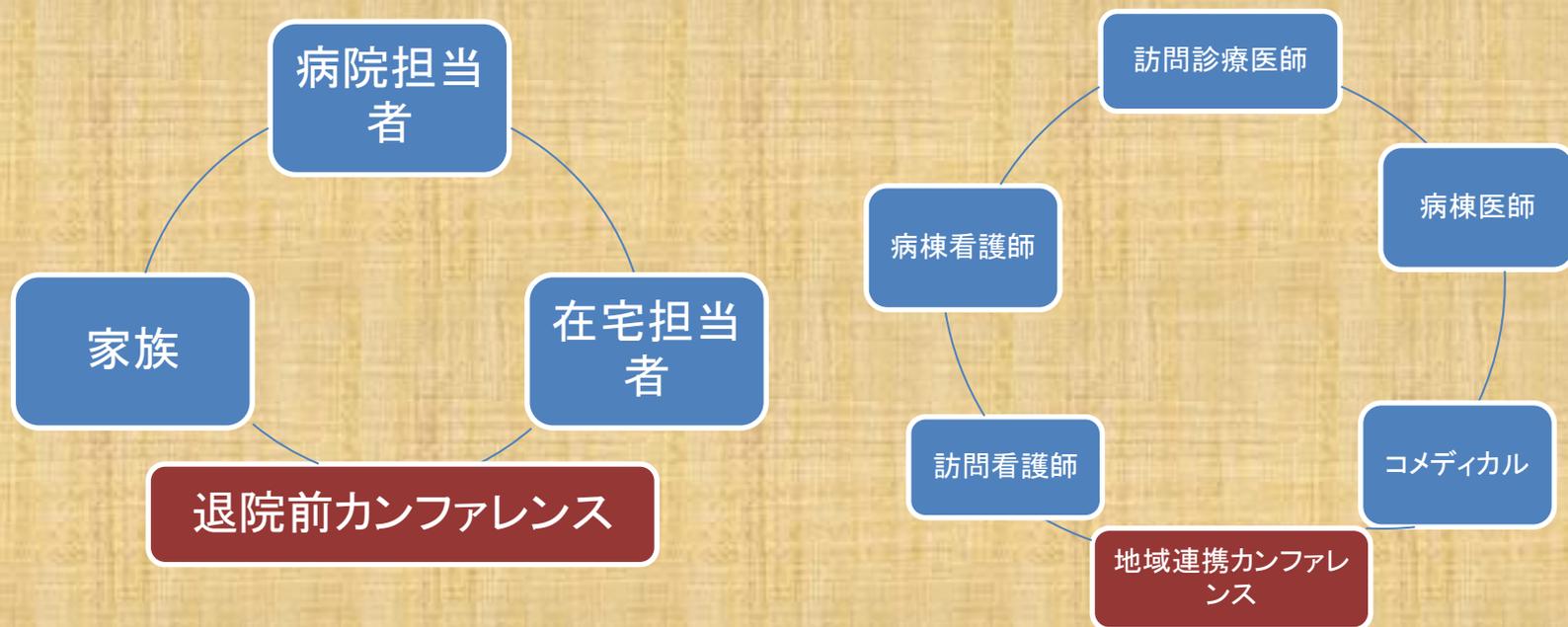
医師会・三病院・訪問看護ステーション・行政で構築



関係者会議 を8回開催して構築！

- ・住民が安心して在宅療養できる
- ・緊急対応をチームで支え、医療者の負担軽減
- ★診療所医師が担当する在宅療養者の基本情報をICTネットワークで共有する。
- ★地域の在宅療養支援病院は、連絡先の一本化・緊急入院ベッドの確保・緊急対応時に診療所のサポート機能を発揮
- ★診療所医師は在宅療養者が増えても負担増にならない

課題2 退院前カンファレンスの効果的な開催の検討 病院で実施しているカンファレンスに参加し、課題抽出



- ・退院カンファレンスは、退院が目的となるため、開催が急である。家族がもつ退院後の心配事への対応が不十分→ **早期にケアマネとの連携をとることが、在宅生活をイメージして指導ができる。**
- ・地域連携カンファレンスは、**院外のケアマネや診療所医師などにも呼びかけることが必要。患者の在宅生活についての情報を共有し、継続的に療養ができるように提案できることが課題。**

課題3 在宅で看取りができる須高地域づくり

リビング・ウィルの文化を育もう

第2専門委員会の取り組み

支援者の目指す世界観

一人ひとりが望む最期を支えよう

住民向けに行なった事業

「須高地域医療福祉を考える集い」の開催(参加者 150人)

テーマ 自分が望む最期を迎えるために

映画「エンディングノート」上映

参加住民の意識

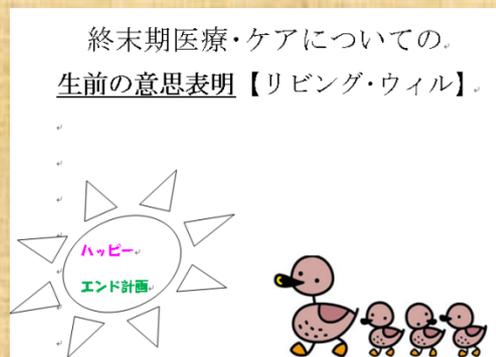
【自分の最期について考えたことがある人 79%】

【事前指示書やエンディングノートについて詳しく知りたい人87%】

須高地域で統一の「終末期の医療・ケアについての生前の意思表示」を作成した。診療所や病院など支援者側から住民に発信する



住民啓
発用
ポスター



地域住民に普及
する
リビング・ウィル

課題4 地域内の介護施設における 嚥下困難食形態の統一

病院栄養士の悩み:施設に退院してから食事形態がうまくいっているだろうか?

利用住民の困りごと:施設によって嚥下困難食の形態が違って困る。

**地域内の医療・介護保険施設等の栄養職員の情報共有と研修会
を実施した**

ムース食・ソフト食・ペースト食・・・
呼称も形態も施設により異なっている



研修会実施

嚥下困難が問題なのか・咀嚼機能に問題があるのか?

摂食障害のある方への注意点

講師: 県立須坂病院 言語聴覚士・摂食嚥下認定看護師

栄養士の感想: 栄養士は一人職場なので、地域で情報共有や研修できる場があるとありがたい。

課題5 災害発生時に備えた対応 医療ニーズが高い在宅療養者に発電機無料貸し出し

支援者の悩み



人工呼吸器を使っている人が、災害で停電になると命が危険だわ！
対策考えましょう

発電機10台購入
無料貸し出し

貸し出し者の状況(2月末)
・人工呼吸器使用者 2名
・常時痰の吸引を要する 2名



利用者の声

- ・停電になった時の対応が不安だったが、発電機があると安心。
 - ・発電機は高額なので自分ではなかなか購入できなかった。
 - ・燃料がカセットボンベなのが良い。
- ガソリンは備蓄が大変・・・